

複式形態の指導におけるICTを活用した間接指導の充実を目指す授業の指導案・実践事例の開発

北海道上川郡東川町立東川第二小学校

〒071-1404
北海道上川郡東川町西4号北32番地

1. 研究の背景

東川町は、北海道のほぼ中央、旭川市の東側に位置し、北海道の峰と言われる大雪山連峰を望む自然豊かな町である。本校は、児童数42名、職員15名、1年と2年が単式学級、3、4年、5、6年が複式学級、特別支援学級が2学級の6学級編成の小規模校である。

平成20年度から国語科を窓口 to 読解力を高める研究に取り組み、20～22年度には、PISA型読解力に視点を当て、「情報を取り出す」ことに加え「解釈」「熟考・評価」「論述」することも含めた「読解力」の育成を目指し、PISA型授業の実践研究に取り組んできた。特に、発問の工夫や評価の在り方、話し合いの活性化、ノート指導やワークシートの工夫など、授業改善を図ることにより、子どもたちに読解力を育むことができた。

23年度からは、これまでの研究の成果を継承し、「自分の思いや考えをはっきり表現できる子どもの育成」～国語科における読解力を高める手立ての工夫～を研究主題として研究に取り組んできた。単元や一単位時間のねらい・目標を明確にするとともに、単元を貫く言語活動の充実に努めてきた。さらに、詩の群読や朝読書などの日常的な言語活動の工夫、複式指導における間接指導の充実により、表現力を育てている。

2. 研究の目的

これまでの経過を踏まえ、25年度は、デジタルコンテンツの利用や情報の発信等、タブレット端末を授業の中で積極的に活用することも研究内容に加え、自分の考えを伝え合う活動を充実させ、表現力を高めるとともに、言語活動を充実させることとした。また、デジタル教材や資料提示及び個別に再視聴するなど、複式指導におけるより効果的な間接指導の充実を目指すこととした。本校では、電子黒板、実物投影機等の機器、eラーニング等、ICT活用の取組も進めてはいるが、電子黒板は一台で教室に常設できないなど、まだまだハード・ソフト両面での環境整備が必要なところであるが、タブレット端末を活用することにより、本校の研究内容である豊かな表現力の育成はもとより、他教科・各領域及び学校生活全体で表現力を高めることを目的としている。

3. 研究の方法

○ ICTの活用による複式学級における効果的な間接指導の在り方と充実

複式形態の指導では、一単位時間の中で、直接指導と間接指導があり、「わたり」「ずらし」を指導過程に位置付け、授業がスムーズに進むよう工夫している。また、直接指導の終わりに間接指導時の活動について、より具体的な指示をするとともに、ワークシートの工夫や学び方の指導の充実、学習リーダーの育成など、子どもたちが主体的に活動できるように研究を進めている。

そこで、間接指導時の「自学の活動」をさらに充実させるために、タブレット端末を使用してデジタルコンテンツの活用を進めることとした。良質のデジタルコンテンツを活用することにより、自ら学び、自ら考えようとする主体的な学びの姿を育むとともに、学ぶ意欲を高めることができるものと考えている。さらに、カメラ機能を使い、音読等の様子を撮影して見直すことで、よいところや改善点に気付いて自ら改善するとともに、ペアやグループで交流し互いに高め合う活動を進めることができると考えている。

また、放送教育研究会に関わって、NHKforSchoolの番組を全体視聴後に、もう一度確認したい部分を個別にタブレットで再視聴したり、ペアやグループで意見交流しながら視聴したりする活用方法も思考力や表現力の向上に効果的な手法であると考えている。

○ ICTの活用による繰り返し学習による基礎・基本の習得と調べ学習の充実

eライブラリや漢字・計算練習のアプリケーション等の利用を進めてきたが、パソコン教室での使用に限られるため思うように活用が進まない現状である。

そこで、いつでも教室で利用できる環境を整えるために、タブレット端末を活用することとした。これにより、授業の進度に応じて必要なときにいつでも活用できる。また、補充的な問題や発展的な問題を個に応じて選択することができるので、「わかる、できる喜び」を感じながら学習を進めることができる。さらに、音声による検索や画像（静止画・動画）等による標記は、低学年にも容易に検索結果を理解することができるものとする。

4. 研究の内容・経過

○ ICTの活用による複式学級における効果的な間接指導の在り方と充実

5. 6年複式学級国語科の実践

第64回放送教育研究会全国大会北海道大会での公開授業で、50インチ液晶テレビ、プロジェクター、BRレコーダー、iPadminiを活用した授業実践である。5、6年生の複式授業であり、学習過程をずらし、各学年の直接指導と間接指導を交互に行っている。そのため、間接指導時にテレビ番組の視聴を行い、iPadminiで再視聴が可能のように準備を行った。



単元名「日本の文化を考える」（5年「物語を楽しむ」 6年「言葉は時代とともに」）

5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> つかむ（直接指導） 本時の課題を把握し、解決の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ふり返る、深める（間接指導） 前時までのふり返りを行う。
<ul style="list-style-type: none"> かんがえる（間接指導） 番組を視聴し、課題の解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> つかむ（直接指導） 本時の課題を把握し、解決への見通しを立てる。
<ul style="list-style-type: none"> まとめる（直接指導） 仲間と意見交流を図り、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> かんがえる（間接指導） 番組を視聴し、課題の解決を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ふかめる（間接指導） 本時をふり返り、作品を味わう。 iPadminiで番組の再視聴 	<ul style="list-style-type: none"> まとめる（直接指導） 番組について話し合い、意見交流を図る。 iPadminiで番組の再視聴

この授業では、NHKの放送番組「おはなしのくにクラシック」をテレビで視聴して活用した。番組の全視聴後、番組について話し合いをもち、意見交流を図ったが、このときに番組をもう一度見たい、確かめたいという児童がいた場合に再視聴できるよう、iPadminiで番組を録画し準備した。このことにより、意見交流が深まり、より一層理解が深まると考える。

○ ICTの活用による繰り返し学習による基礎・基本の習得と調べ学習の充実

今回のタブレット端末導入、校内ICT環境の整備により、コンピュータ室に移動して行っていた学習が、教室でできるようになった。これまでは教室での複式授業で、どちらかの学年が自学の時間となる場合、コンピュータ室に移動して、インターネットによる調べ学習やeラーニングを利用したドリル学習、繰り返し学習を行っていたが、タブレット端末が教室内で使えるようになったため、教室で間接指導時に、簡単に、また効率的に利用できるようになった。そのため児童は自ら進んで学習に取り組み、基礎・基本の確実な習得に成果が見られた。また、iPadの録画機能を利用し、国語科で友達の朗読を録画して見直して交流したり、体育科では運動の様子を録画し、再生して体の動きやフォームについてペアやグループでの話し合いの材料にするなど、簡単に持ち運びができ、録画再生できる等の特徴を生かした活用の仕方でもできた。また、実物投影機を使って児童ノートやプリントを拡大投影し、発表に生かす等の活用の仕方により、児童の学習に対する意欲や、表現力の向上に生かすことができた。



5. 研究の成果

複式形態の指導における間接指導の充実のためにさまざまな場面でタブレットPC等のICTを活用することにより、児童の興味・関心を高め、課題解決が円滑、効果的に進めたり、学んだことを活用することができるようになり、確かな学力の習得や学ぶ喜びを感じ、学びの成果を実感することができることで学ぶ意欲の向上にもつながった。

間接指導時にタブレット端末を活用することにより、児童の興味・関心を高めることのみならず、補充・発展的指導等、個に応じた対応が容易に行うことが可能であるとともに、タブレットPCで撮影した動画等をもとに活動を振り返ったり改善を加えたりすることにより、技能を高め、学習内容を深めることに結びつけることができた。

また、NHKforSchool等放送内容を一度で把握できない場合やもう一度確認したい場面があった場合、大型テレビでは一人一人個別に視聴することは困難であるが、タブレット端末を活用すると、個別・ペア・グループに応じて、見たい場面を再視聴することが可能であり、視聴内容の理解を深めるとともに、学習内容の定着を図る事ができた。

6. 今後の課題・展望

今回の研究では、授業での活用について、間接指導時のICT活用を中心に研究を進めてきたが、学習過程を工夫することにより、直接指導に生かしたり、児童の発表に活用する等、さまざまな場面での活用が考えられる。実践を工夫しながら研究を継続したい。

今回は、主に高学年の複式学級でのICT活用の実践が多くなったが、タブレットPCは操作が簡単であることや、持ち運びが可能であることから、低学年の児童も十分に利用可能と考える。

機器の特徴を生かした活用の仕方についても工夫し、楽しい授業、わかる授業の推進に努めていきたい。

7. おわりに

今回の研究を通して、校内のICT環境を整備し、活用する体制を整備することができた。教室で一人1台タブレット端末を使える体制が整ったため、前年と比べても、ICT機器を利用した授業が増え、教員のICTに対する意識も高くなった。複式の授業の特徴である間接指導の時間が有効に活用でき、児童の学習に対する意欲も向上が見られた。今後も研究をさらに深め、小規模複式校におけるICTの活用について実践を充実させたい。